

タイトル：『漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み』

責任者：丘山 新

(1) プロジェクト全体計画（概要・目的・意義など）

東洋学研究情報センターでは、その設立とともに国内外に先駆けて『漢籍目録データベース』を構築し、引き続き『貴重漢籍全文画像データベース』の構築を開始した。本プロジェクトは、1) これらのデータベースそれぞれの質と量との両面において更に充実を進めつつ、新規に特別貴重書の全文カラーデジタル化を開始し、2) レファレンスとしての目録データベースとファクトデータベースとしての貴重書データベースという二つの「資料庫」に、新たな要素（第一段階としては四庫全書總目提要）を媒介として用い、これまでの「資料庫」とは次元を異にする「知識庫」の構築をめざす。3) さらに、上記『目録データベース』は既に『全国漢籍目録データベース』の基となり、また台湾地区の『漢籍目録』との共同運用へと展開してきたが、昨年度より『貴重漢籍データベース』に関して、中国国家図書館との協定に基づき共同研究を開始し、国際共同利用活動の一環として、漢籍に関する国際共同運用を推進する。

(2) 今年度の進捗状況

上記の全体計画に沿って：1) 貴重漢籍とはされないものの使用頻度の高い漢籍は痛み方が進みやすい。それら保護するために、本年度はまず、稀覯本である『佛果碧巖破関撃節（いわゆる碧巖録の最古の資料である一夜本）』をグレースケール、および白黒で TIF と PDF とでデジタル化した。来年度予算が付けば、これらを貴重漢籍データベースに追加入力することになる。

2) 本研究所の漢籍目録 DB は、漢籍独特の分類を階層的に調べることもできるよう学習用にも配慮した設計になっている。22年度からさらに「四庫全書総目提要」を付加する作業を開始したが、今年度は子集部の提要をテキスト化した。

3) 21年度に協定を締結した中国国家図書館と漢籍に関する共同研究の具体的な作業として、中国国家図書館に一部貴重資料を除き、資料提供し、国家図書館のHPからも直接に閲覧できるようにしたため、中国国内からの閲覧速度も飛躍的に向上した。

(3) 公開済の（または予定の）具体的な成果物

1) 貴重漢籍善本全文画像データベース (<http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) にて、2006年4月より遡及入力をしつつ公開中。

2) 『佛果碧巖破関撃節』（23年度上半期に公開予定）